

まずはまっすぐな気持ちで見ることからはじめたい

中能孝則



< 2年前に完成したタイ国際空港 >

最初のカルチャーショック

東南アジアへの旅は始めてである、カンボジアまでの直行便がないために成田を飛び立って6時間タイのバンコク国際空港に到着、トランジットのみの2時間であったが、空港内を散策することができた。

2年前に新設された空港とは聞いていたが、その規模の大きさ、美しさ、お客様第一に考えられているショッピングロビーなど、成田空港をしのぐすばらしさに驚かされた。

アジアでは何でも日本が一番ではと思っていた自分の認識の甘さが、1回目のカルチャーショックであった。

2回目のカルチャーショック

バンコクからわずか1時間でカンボジア国際空港に到着、上空から見た景色は水の都といった感じであったが、正直に言って空港のローカルさには驚かされ、一気に数十年前にタイムスリップした感じがした。

入国審査には思いのほか時間がかかったが、税関審査ではニコニコ笑って申告書取るだけでなんともしなかった。

しかし、税関を出ると花束を持った青年たちが拍手で迎えてくれた。この青年たちは7月に日本に来たときに、今回のカンボジア団がお世話した青年たちと教育省関係の皆さんで大歓迎して下さった。

3回目のカルチャーショック

カンボジアの青年たちも一緒にバスに乗り込んでもらいホテルに向かった。青年たちはお互いに思い出話に花が咲いたが、英語のできない小生は窓の景色に目をやっていた。

空港からホテルまでは約30分この間、車の間を縫うように100cc前後のオートバイとそのオートバイに引かれたリヤカータクシー(トゥクトゥク)が所狭しと走っています。

しかも、そのオートバイには二人乗りは当たり前、さらに3人乗りもあり驚いているところに、今度は4人乗りのオートバイも走ってきました。そしてついに子どもを含めて5人乗りのバイクに出会いました。

しかもそのほとんどがホンダ、スズキ、ヤマハと日本のバイクです。



1950年代にタイムスリップ

街灯に照らし出される目の前の光景は、テレビや映画で見る戦後の日本にタイムスリップしたような感じで貧富の差は大きいような感じもしました。しかし、町は活気に満ちあふれていて、10~20年後には頼もしい国になるのではと想像しつつホテルに向かった。



カンボジアデータその1

全人口:1400万人(プノンペン200万人)
こどもの出生率は:1.8パーセント。15歳未満のこどもは全体の45パーセントに当たる。

電気の普及率プノンペン市内で80%、全国平均では10%強。(停電は時々起こる)
電気製品の普及率、プノンペンを中心に約20%。(日本の製品が壊れにくく長持ちすることから人気は高い)

政治は立憲君主制

歴史

1953年:フランスから独立(インドシナのオアシスといわれていたほど綺麗な国であった。)

1975年~1979年KR政権(ポルポト政権)
原始共産主義(見事に失敗した。)

*自国民の虐殺など多くの傷跡を残した
今でも拷問博物館で歴史を感じる。

*相互不信、信頼の不足。知識人の不足、

(政策の立案と実施) 教育水準の低下、
1979年ベトナムの進行により変わっていく
内戦が91年まで続く

1991年 パリ協定締結

第一首相 ラナリット

第二首相 フンセン首相

1998年 フンセン首相単独首相

2008年 4月に総選挙が行われた

*安定期を迎えているが民主主義がどのように成立するか

*インフラの整備、財政制度、人権制度の確立が求められている。

*ポルポト派の残る5人の裁判が続いている

感情の問題もあり今後の裁判の進め方は非常に難しい。(加害者と被害者が同じ村にいる etc)

1日1ドル以下で暮らす人34パーセント
(各国からの援助もあるが、汚職も頻繁に起きており、貧富の差の大きさは大きな課題となっている)

義務教育:99パーセントの子どもが学校に行けるが5年生までいける子は65%にとどまっています、アジアではもっとも低いといわれている。

ゴミ処置については埋立地を郊外に建設しようとしている、有害物質を出すゴミの問題は課題である。(分別に対する住民教育が必要である)

